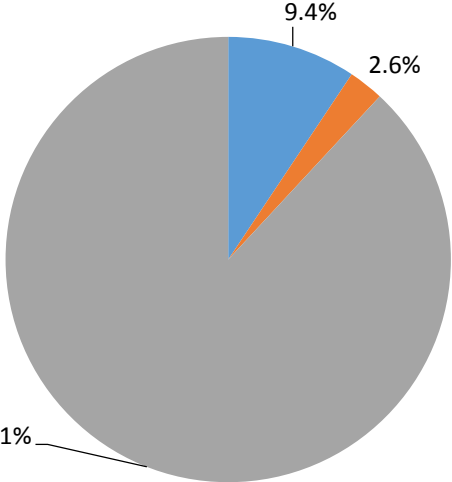
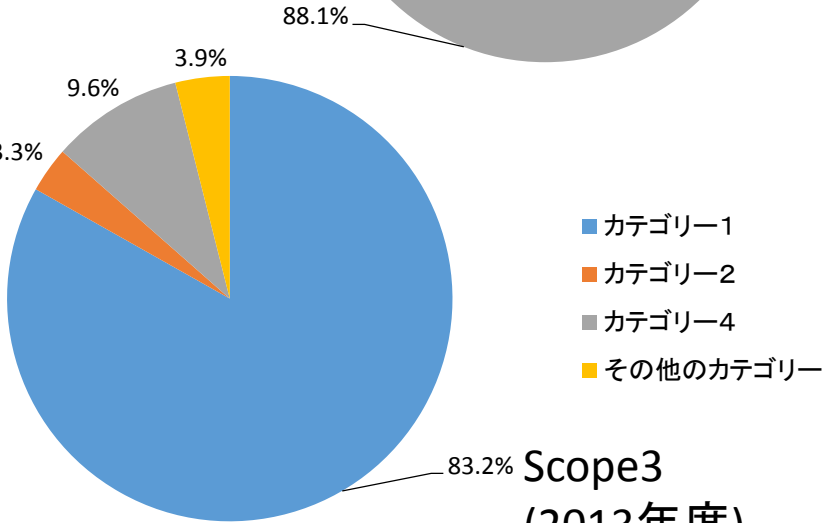


日本通運株式会社

項目	内容
1.企業情報	<ul style="list-style-type: none"> ● 業種：物流業 ● 事業概要：貨物自動車運送をはじめとする各種運送事業、警備業、旅行業、販売事業、不動産事業等をグローバルに展開している。 ● 事業規模：連結売上高1,864,301百万円、従業員数70,092名（2017年3月末）
2.削減目標案 ※定量値公表が難しい場合、定性的説明でも可	<p><Scope 1・2 の削減目標と削減に向けた取り組み> （目標 2030年に2013年比で25.3%（仮）削減※） ※日通単体30%、グループ各社20% （環境配慮車両、設備の導入と、電力の再エネ化を推進）</p> <p><Scope 3 の削減目標と削減に向けた取り組み> （Scope3: 2030年に2013年比で20%（仮）削減） （利用運送業者との協業により、排出量削減に取り組む。また、梱包資材の改善で上流輸送を削減する。）</p>

日本通運株式会社

項目	内容										
3.基準年のGHGインベントリ	<ul style="list-style-type: none"> ● Scope 1・2・3の排出量の状況 <p>Scope1,2,3 (2013年度)</p>  <table border="1"> <caption>Scope 1, 2, 3 Emissions (2013)</caption> <thead> <tr> <th>Scope</th> <th>Percentage</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Scope 1</td> <td>9.4%</td> </tr> <tr> <td>Scope 2</td> <td>2.6%</td> </tr> <tr> <td>Scope 3</td> <td>88.1%</td> </tr> </tbody> </table>	Scope	Percentage	Scope 1	9.4%	Scope 2	2.6%	Scope 3	88.1%	<ul style="list-style-type: none"> ● SCOPE1 : 762,226 [tCO₂] (2013年度) 	
	Scope	Percentage									
	Scope 1	9.4%									
Scope 2	2.6%										
Scope 3	88.1%										
 <table border="1"> <caption>Scope 3 Emissions Breakdown (2013)</caption> <thead> <tr> <th>Category</th> <th>Percentage</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>カテゴリー1</td> <td>83.2%</td> </tr> <tr> <td>カテゴリー2</td> <td>3.9%</td> </tr> <tr> <td>カテゴリー4</td> <td>9.6%</td> </tr> <tr> <td>その他のカテゴリー</td> <td>3.3%</td> </tr> </tbody> </table>	Category	Percentage	カテゴリー1	83.2%	カテゴリー2	3.9%	カテゴリー4	9.6%	その他のカテゴリー	3.3%	<ul style="list-style-type: none"> ● SCOPE2 : 208,212[tCO₂] (2013年度)
Category	Percentage										
カテゴリー1	83.2%										
カテゴリー2	3.9%										
カテゴリー4	9.6%										
その他のカテゴリー	3.3%										
<p>83.2% Scope3 (2013年度)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● SCOPE3 : 7,174,793 [tCO₂] (2013年度) 										

日本通運株式会社

項目	内容
4.気候変動によるリスクと機会の分析	<ul style="list-style-type: none">● 平均降水量の増加により、道路の通行止めや鉄道、船舶、航空機の運行停止の発生が増え、輸送障害が発生した際、他の輸送モードへの切り替えや緊急輸送等、追加費用が発生する。● 企業が温室効果ガス排出量の開示をすすめることにより、当社の低炭素型輸送サービスが選好されるようになる。● 大雨などの災害発生時、複数の拠点・輸送モードを持つ当社は、他社より優れた輸送サービスを提供することができる。● 救援物資の輸送や保管などの新たなサービス提供が期待できる。
5.削減目標設定の背景・目的・期待する効果など	<ul style="list-style-type: none">● 温暖化防止に向け、日通単体で環境関連長期目標を設定したが、これをグループを含めたものにし、目標が2度目標の水準に整合すると表明できるように、SBTの認定を受けることを目指している。● SBT取得により、ビジネスチャンスの拡大や、市場での高評価を期待している。

日本通運株式会社

項目	内容
6.目標設定のプロセスと社内の議論	<ul style="list-style-type: none">● CSR部で目標設定検討中。
7.今後の課題	<ul style="list-style-type: none">● グループを含む、社内での合意形成。● 目標達成に向けたロードマップの作成。● 主要な利用運送業者への削減要請と各社からのデータの収集。● グループ会社別Scope1～3の把握。